

地域労働市場の需給ミスマッチの決定要因～日系ブラジル人の雇用が与える影響～

長谷川 理映 (関西学院大学大学院)

キーワード： 需給ミスマッチ、失業率、無業率、日系ブラジル人

昨年の米国の金融危機の影響を受け、急激な景気後退による企業業績の下降傾向などを背景に、日本の輸出産業を中心としておこった非正規雇用の急激な削減は、最近の失業率を高める一因となっている。概して非正規雇用からの失業者は、正社員として必要な技能・知識を持たないことが多い。非正規雇用と失業の間を往復することも少なくないため、労働市場における需給のミスマッチを拡大させている可能性がある。

同時に、就労を希望しながらも、実際には厳しい就労環境に耐えられず、また家庭と仕事の両立が困難であることのほか、外国人については就労に必要な日本語能力の不足もあって、就職活動をあきらめ、非労働力人口にカウントされ、失業統計に含まれない人々の割合は高水準となっている。

政府は、就労インセンティブを高め、労働力人口を増加させ、経済社会の持続的な発展を可能とする雇用政策を強化するとともに、最近では緊急経済対策の一環として、教育訓練、住宅確保などと職業紹介サービスを一体的に提供し、外国人への就労支援も実施している。しかし、労働市場における需給ミスマッチは従来以上に多様化し拡大し、雇用対策はまだ十分な効果を発揮していない。

また少子高齢化の程度、グローバリゼーションの影響、産業構造の違い等により、労働市場の需給ミスマッチに地域差が見られ、今後雇用政策も市町村など自治体との協力が重要になっている。

本報告では、①地域データを用いて、地域労働市場の需要面と供給面から地域労働市場の需給ミスマッチの規模やその決定要因について分析する。②これらの分析結果に基づき、日系ブラジル人の雇用が、需給ミスマッチに与える影響について、「Location Choice」の理論を応用した分析を行い、雇用変動と産業構造の変動との関係やそれらの決定要因を分析する。③最近の日系ブラジル人をめぐる雇用及び地域労働市場に適合した外国人雇用対策の必要性を提言する。

1. 地域労働市場の需給ミスマッチモデルと需給ミスマッチ分析

労働市場に関する経済理論においては、供給と需給が一致する均衡点において、実質賃金と雇用量が決定される。しかし実際の労働市場では、失業と欠員が併存するミスマッチ状況が一般的である。そこで、労働市場における失業と欠員の共存を前提とし、労働需給ミスマッチの原因及び対策の効果を分析するために開発された理論モデルである、レイヤール・ニッケル・モデル (Layard-Nickell Model) (Layard and Nickell 1986, Bellman and Jackman 1996) を用いて、需給ミスマッチの概念そのものを拡大し、レイヤール・ニッケル・モデルを拡張した。これは、労働需要や労働供給の多様な要素を明示的に含み、労働需給ミスマッチの決定要因と雇用対策の効果を測定するうえで、より一般的なモデルといえよう。

次に拡張されたレイヤール・ニッケル・モデルをもとに、計量分析を行い、労働市場のミスマッチの決定要因を比較検討する。データは、原則として、47都道府県の暦年数値とし、これを、1997年から2001年までと、2002年から2007年までについてプールし、日系ブラジル人も説明変数に含め、最小二乗法による多変量解析の方法により、計量方程式を推定し、分析を行う。

2. 日系ブラジル人の雇用と需給ミスマッチ

次いで、日系ブラジル人の雇用が、需給ミスマッチに与える影響を掘り下げて検討するため、「Location Choice」の理論を応用して、経済的及び非経済的な両面から決定要因を分析する。

先行研究においては、需要面では、外国人労働者は不足する現業労働における日本人労働者の代替手段とされ、ブローカーの介入により景気変動への調整手段となっているという指摘や（今村2001）、供給面では、外国人の滞在期間の長期化や家族形成の進展が指摘されてきた（梶田2001）。最近では、企業が外国人を雇わなくなった理由に、日本人が十分に採用できることに次いで、日本語によるコミュニケーションがとれないことを挙げる調査結果も見られる（中村ほか2009）。さらに、今世紀における製造業の国内回帰と地域における産業集積に、ブラジル人雇用が貢献したという分析結果もみられる（井口2009）。これら指摘をふまえつつ、日系ブラジル人就業・居住の地域の選択行動の変化が、労働市場における需給ミスマッチにどのように影響を与えたかを検討する。

3. 最近の日系ブラジル人の雇用及び地域労働市場に適合した外国人雇用対策の必要性

最後に、昨年の金融危機後の非正規雇用の急激な削減が、派遣・請負といった不安定な雇用形態で就業していた多くの日系ブラジル人に与えた影響について検討し、日系ブラジル人などに対する緊急雇用対策の課題を明らかにする。これに加え、日本の人口の減少とともに増大が見込まれる外国人との多文化共生を目指す自治体の地域政策と連携し、地域労働市場に適合した外国人雇用対策の必要性について提言する。

参考文献

- 中村二郎、内藤久裕、神林龍、川口大司、町北朋洋（2009）「事業所の中の外国人－外国人雇用状況報告とアンケート調査－」『日本の外国人労働力 経済学からの検証』日本経済新聞出版社 pp29～72
- 井口泰（2009）「外国人政策の改革と東アジアの経済統合への貢献：製造業の「国内回帰」に関する分析と考察」浦田秀次郎編『グローバル化と日本経済』勁草書房 pp141～166.
- 今村肇（2001）「なぜ外国人を雇用するのか：景気や業態との関係をもとに」桑原靖夫編『グローバル時代の外国人労働者 どこから来てどこへ』東洋経済新報社 pp209～225
- 梶田孝道（2001）「外国人労働者と地域社会、公共政策」桑原靖夫編『グローバル時代の外国人労働者 どこから来てどこへ』東洋経済新報社 pp149～184
- Bellmann L. and Jackman R., (1996) “ The Impact of Labour Market Policy on Wages, Employment and Labour Market Mismatch” in Schmid G., et al (ed) *International Handbook of Labour Market Policy and Evaluation*, Edward Elgar PUBLISHING Limited pp725-746
- Layard R. and S. J. Nickell (1986), “Unemployment in Britain”, *Economica (suppl.53)*, S121-S70